

2015年7月10日

発行：特定非営利活動法人子どもNPO・子ども劇場全国センター
〒133-0057 東京都江戸川区西小岩2丁目20番16号

ライオンズマンション西小岩第3402号

TEL：03-5876-8251 FAX：03-5876-8252

URL：<http://www.kodomo-npo.org> Eメール：info@kodomo-npo.org

2015年度通常総会を無事終わりました。すべての議案が全会一致で承認されましたことを、ご報告します。
この総会では、2014年9月に事務所を新宿から江戸川に移転したこと、長年の負債がすべて完済し、移転により管理費が大幅に軽減したことが報告され、また、第一優先で財政の立て直しをしてきたこの7年間でしたが、助成金を獲得しながら被災地支援等、全国センターとしてできること、基盤になる事業を確立することも同時に行ってきました。2015年度は、財政問題が片付いたことから、改めて本来何をすべきか、しっかりと方向性を決めていく総会でした。団体正会員会費を現1口50,000円から1口30,000円に変更しました。

★2015年度通常総会 無事終了しました

1 日 時

2015年5月30日（土） 14:00～15:40

2 場 所

東京都渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟109号室

3 正会員総数

団体正会員 14人 個人正会員 15人

4 出席者数

団体正会員 14人のうち 6人出席、表決委任者9人

個人正会員 15人のうち 7人出席、表決委任者6人

お客様 ワイジェイカード（株）八木沢雅祥さん



5 審議事項

第1号議案	2014年度事業報告の件	第2号議案	2014年度活動計算の件	会計監査報告
第3号議案	2015年度事業計画の件	第4号議案	2014年度活動予算の件	団体正会員会費変更の件
第5号議案	2015年度の役員体制報告の件			

【承認された内容の詳細】

- ① 子どもNPOカードであるワイジェイカード（旧KCカード）が2015年9月をもって終了すること。
各加盟者に、ワイジェイカードから丁寧な案内を6月中旬に届ける。
- ② 団体正会員会費を現1口50,000円から、1口30,000円にすること。

関連企画

竹内延彦さんの講演による 国の子ども・子育て施策、長野県の子ども・子育て施策・活動を学ぶ

2015年5月30日（土） 13:00～13:55

テーマ：子どもたちの時代（次代）を本気で創れるか！？

ゲストスピーカー：竹内延彦さん（長野県県民生活部次世代サポート課主幹 全国センター理事）

行政マンとして、国の子ども・子育て施策を熟知し、その全国的な実践例や成功例、それらを地域とどうつなぐか、NPOとして子どもたちの次代をつくるために何をするか等について、お話しいただきました。国の動きとして、地方分権から地方創生へ、貧困支援として官民連携の基金創設。課題は保育と教育の多様性の保障と、子育て支援は親支援だけでなく、子ども自身の豊かな幼児期を！がある。地方の動きとして「日本創生のための将来世代応援知事同盟」は、40代～50代の県知事で構成され、子育て環境の充実や、女性の活躍促進などを盛り込んだ声明や国への提言を出した。長野県での信州型自然保育認定制度の紹介や、教育改革などアクティブな動きも紹介された。

■ワイジェイカードからカード終了の連絡が加入者に送付されました。

6 月末、ワイジェイカード（株）から、「子どもNPOサポートカード」の取り扱い終了のご案内が届いたと思います。主な内容は、

- ① 2015 年 9 月末をもって、子どもNPOサポートカードの取り扱いを終了すること。
- ② 合わせて、カードショッピングの 0.5%の寄付も終了すること。
- ③ 子どもNPOサポートカードの取り扱い終了のに伴い、新しいカードを 2015 年 8 月以降に、順次お届けする。（赤字の注意書きをよくお読みください）
- ④ 公共料金・通話料等、継続的なお支払にカードを利用いただいている場合、変更の手続きが必要になる。
- ⑤ 詳しくは、9 月上旬に発送するカードに同封する「ワイジェイカード株式会社からの重要なお知らせ」をご確認ください。

カードに関するお問い合わせは、ワイジェイカード株式会社コンタクトセンターへ

0 5 7 0 - 0 0 2 8 2 0（営業平日 9:30～17:30）

■2015 年度の主な事業

●事業実施の方針

① 国の子どもや子育て支援策、文化や教育関連のこと等の情報把握、その情報をどう活用するかについて勉強し、また、国のNPO関連施策についての情報の把握・提供に力を入れる。

②1966 年に福岡で子ども劇場が誕生し、2016 年で 50 年（半世紀）を迎える。全国センターはここ数年、財政の健全化を最優先で行ってきた。今年度、財政問題が一旦片づき 50 年の節目を迎える今、改めて NPO として子ども・子育ての諸課題の解決や改善に向き合い、行動する組織に変えていく一歩を踏み出していく。そのための組織・体制づくりを、様々な角度から検討・議論を始めていく。

③被災地への子どもや子育て、コミュニティー等支援に関して引き続き事業をすすめていく。ホッとアート®事業やママパパライン事業の全国的なネットワークを強め、コーディネーターやボランティア等の質を高めていく。

1. 子どもNPOに関わる法制度改革など基盤整備に関する活動

2. 子ども施策を活用した県行政や NPO の先駆的な事例や成功例の情報を学ぶ活動に支援する活動

3. 被災した子ども・家庭・コミュニティーを長期的
①子どもたちや家族・高齢者にホッとアート等を届け、コミュニティーを支援する事業の推進

4. ママパパラインの全国交流とネットワーク強化
① 「ママパパライン」9 箇所での常設運営の推進と全国キャンペーンの実施

全国キャンペーン 2016 年 2 月 15 日（月）～2 月 20 日（土）

② 全国のママパパラインの受け手・支え手・スタッフ交流研修会
日時：2016 年 3 月 7 日（月） オリンピック青少年センター

5. 共済制度の普及と開発

①「団体共済制度」の普及 ②子どものための「NPO 総合保険」の普及

6. 情報発信の推進 情報交換の充実

■ドコモ助成金申請が第一次通過、第二次の面接に

6 月 24 日 ドコモ助成金申請の第二次の面接に行ってきました。「全国ネットでのママパパラインキャンペーン実施とボランティア強化」の内容です。民間の開設するママパパラインの特色と、養育者がどのような状況におかれているのか、申請書に添って説明をしてきました。大変応募数が多く、7 月 15 日まで全国で面接が行われるようです。

■「子ども NPO 白書 2015」が、間もなく完成します

日本子どもNPOセンター「子どもNPO白書」変
集委員会（編） B 5 版 250 ページ

「子どもNPOと子ども文化」の分野を全国センター・中村が担当させていただきました。原稿を寄せていただいた 3 団体は、鑑賞や子どもの主体的なあそび、子どもの居場所づくりなど、ミッションを高く掲げ、子どもの地域課題を解決する NPO として様々な連携を強化し、地域になくてはならない存在となっています。8 月末の完成。只今、事前予約を取り扱っています。

■2015 年度も、昨年の役員が引き続き務めます。よろしく願います。

2016年1月10日

発行：特定非営利活動法人子どもNPO・子ども劇場全国センター
〒133-0057 東京都江戸川区西小岩2丁目20番16号

ライオンズマンション西小岩第3402号

TEL: 03-5876-8251 FAX: 03-5876-8252

URL: <http://www.kodomo-npo.org> Eメール: info@kodomo-npo.org

新しい年を迎えました。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

日本の子どもの貧困率16.3%、OECD（経済協力開発機構）加盟34か国中、11番目。児童相談所への相談件数も昨年にも増して増加し、歯止めがかからない。「子どもの貧困対策推進計画」が現在全国のほぼすべての自治体で作成中または作成済み。子ども劇場が福岡に誕生して50年。子どもや養育者に一番近いところにいる私たち市民・NPOが、これからもガンバラネバ...ですね。

★2015 年度事業進捗

1. 子どもNPOに関わる法制度改革など基盤整備に関する活動

- ①NPO 法人会計基準協議会⇒平成26年度の「実施調査」を実施。全国センターは東京都内70団体を調査
NPO 税制関係⇒平成27年12月16日 与党が「平成28年度税制改正大綱」を公表。
NPO 法人のマイナンバー制度関係⇒一斉メールにて会員・役員に情報提供した
- ②日本NPOセンターの学習会への参画
CEO 会議において、「NPO の法制度改革推進会議」のメンバーとして、今後の改正等の策定に参画
名越理事から順次旬情報が出されています。ぜひ読んでいただき、県や市町村のNPO 関連の動きも、情報としてフィードバックください。

2. 子ども施策を活用した県行政やNPOの先駆的な事例や成功例の情報を学ぶ活動に支援する活動

- ・竹内延彦さんの講演による 国の子ども・子育て施策、長野県の子ども・子育て施策・活動を学びました。
- ・日本子どもNPOセンター「子どもNPO白書」づくりに参画。購入を受け付けています。1冊2,000円

3. 被災した子ども・家庭・コミュニティを長期的に応援する

助成: 連合 愛のキャンパ 1,350,000円(ホッとアートとママパパラインに使用)



- ①福島を中心とした被災地の子どもたち、病院等にホッとアートを届ける
- *2月27日(土) 山形県川西町玉庭地区のおもいで館。吉野裕之さん(NPO 法人シャローム災害支援センター)と連携。被災した子ども、幼児を連れた家族等が参加し、地域の方々、山形の子どもたちとの交流もあります。
- *3月末 会津若松市 竹田総合病院。会津子ども劇場と連携、病院とのコーディネートをしてくださいます。
- *3月末までに 宮城県こども病院他を予定 せんだい杜の子ども劇場と相談中。

4. ママパパラインの全国交流とネットワーク強化 (ドコモ市民活動助成 500,000円)

- ① 「ママパパライン」9箇所での常設運営の推進と全国キャンペーンの実施
全国キャンペーン 2016年2月15日(月)~2月20日(土)
- ② 全国のママパパラインの受け手・支え手・スタッフ全国交流研修会
日時: 2016年3月7日(月) 10:30~16:30 オリンピック青少年センター 50名~80名規模
内容: 講演: 阿部学 敬愛大学講師 「スマホ・ケータイに関する子ども若者リアル事情 ワーク」
・9か所の実践リレー報告 ・事例研究 スキルアップ&交流

詳細なご案内チラシを1月末にお送りします。

5. 共済制度の普及と開発

- ①「げきじょう保険」の更新手続きが11月末に完了。加入団体100。事故を防ぐリスクマネジメントを心がけましょう。
- ②ワイジェイカード提携カード 2015年9月末をもって終了。長い間ありがとうございました。

(特)名古屋おやこセンター発信

竹内延彦さん(長野県県民生活部次世代サポート課主幹 全国センター理事)をお迎えして学習会を開催。そのお話しを概要を寄せていただきました。

「長野県の子どもや若者をひとり残さずしっかりと支援したい」という阿部長野県知事の強い意志で、NPO、民間企業と長きにわたって、子ども若者支援に取り組んでこられた竹内さんは、任期付(5年間)職員課長級待遇で行政の中へ、次世代サポート課の設立と同時に入庁。次世代サポート課はNPOの人材を活用し、知事部局と教育委員会の橋渡しをし対立構造をつくらないこと、県民に情報を出すこと、県民と職員をつなぐかわりが重要視されています。

長野県の若手職員が中心になって2013年12月に立ち上げた「信州イノベーションプロジェクト(略称SHIP)」は、“長野県をどこより楽しい場所にする”をスローガンに掲げ、現在は県職員だけでなく民間からも30人が加わり総勢50人のメンバーで活動しています。自治体から地域に飛び出すネットワーク型公務員「地方から日本を変える」という志を持つ公務員がいるということは心強い限りです。行政も社会の変化や多様なニーズに応えるための「多様な価値観、幅広い発想・視点」が求められ中、長野県では多様な人材を複数の採用ルートから登用し、正職員の社会人採用にも積極的に取り組んでいます。

●これからの行政が意識すべきキーワード

(1) 先行投資型施策

お金だけでなく『希望』の投資を!

たとえば、引きこもりの支援についても早い段階からの支援を。何よりも幼児期の育ちから支援していくことで効果的に支援を届けることができる。

(2) 施策の発展性と持続の可能性

部局横断の事業体制と中長期的なビジョン。
包括的で継続的な視点をもった施策にはNPO的発想と人材が不可欠。

(3) NPO的人材の発掘と活用

“偏りがなく、かつ信念がぶれずにまとめ役になれる”ような人材。結果としてプロパー職員の視野が広がり意識が変わる!

(4) 連携や協働よりも「明確な役割分担」

「マネジメントの基準を顧客主義・業績/成果主義に転換すること」・・・まさに子どもや教育施策に不可欠な視点学校のガバナンスという点では企業経営的な視点が重要

行政マンとしての竹内延彦さんの講演等を希望される場合、コーディネートいたします。全国センターまで

●長野県の子ども・教育政策

誰のための政策なの? Student First(学習者本位)に徹しての教育改革を「教員の資質向上・教育制度あり方検討会議」を設置しすすめているとのこと。

長野県の子ども支援施策は“子どもがまんなか”を共通概念に、子どもと若者を連続的かつ包括的に支援「すべての子どもと若者たちに、“出番と居場所を”そして“自信と夢を”」をスローガンにしているが、しかし、現実には長野県青少年生活意識調査では学齢が上がるにしたがって、自己肯定感が低下していく様子が見えはつきりとあらわれていました。本来、子どもは生きる力を備えており、特に幼児期は自信と自己肯定感に満たされているはず。子どもたちに幼児期からできるだけ豊かな体験ができる環境を保障することが重要です。豊かな体験は「自然環境」「地域資源」を活用した活動を増やすことを考え「信州型自然保育認定制度」を設け、自然保育いわゆる「森のようちえん」をすすめていくものです。自然の体験活動の支援を行うことで、子どもたちが、幼児期から自信や自己肯定感を持ち続けることのできる保育や幼児教育を現場の方々と協働していく事業です。子どもは一人ひとりが唯一無二の存在であり、それぞれの個性や特性が尊重され、出番と居場所が得られる環境ならば、心身ともに成長できるでしょう。子育てや教育に良い環境を求めて、都市から地方への人々の移住交流を視野に入れて全国展開し、自然保育に魅力を感じ移住する人が増加するでしょう。

子育てには、楽しい幸せというポジティブなメッセージが少子化対策の原点です。

●これからのNPOに求められること

- (1) 自治体や首長との連携・・・国よりも地方(地元)と連携強化
- (2) 行政の下請けではなく政策づくりの協働者に
- (3) 政治家(都道府県議員、市町村議員)との連携・・・国よりも地方議員を生み出す
- (4) NPO関係者をもっと行政内部へ送り込む・・・職員とつながる

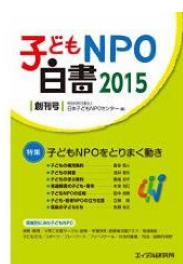
●団体で行っているホットアート ママパパライン 子どもの活動 NPOの協働等情報をおよせください。ニュースに載せていきます。

●「子どもNPO白書」

第I部では、子どもNPOをとりまく動きが7つの視点から説かれ現在状況とこれからの方向が俯瞰できます。

第II部では、9つの領域にわけて、領域別の概説と実践が、具体的に語られています。

第III部の資料編では、関連法規などの解説かなり濃度の高い本ですが、読みやすい工夫がなされていて、楽しく読めます。



購読希望は、別紙申込書で申し込んでください。

2016年3月31日

発行：特定非営利活動法人子どもNPO・子ども劇場全国センター
〒133-0057 東京都江戸川区西小岩2丁目20番16号

ライオンズマンション西小岩第3402号

TEL：03-5876-8251 FAX：03-5876-8252

URL：<http://www.kodomo-npo.org> Eメール：info@kodomo-npo.org

年度末を迎え、まとめや総会の準備等にお忙しい毎日のことと存じます。

寒暖が激しい初春になりましたが、桜は長く楽しめましたね。毎年のことながら美しく咲きほこり、見事な散り際をみせてくれました。

さて、子どもNPO・子ども劇場全国センターの総会は、2016年5月28日（土）13:30～ 国立オリンピック青少年センター センター棟403 で開催いたします。ご出席いただきますようお願いいたします。

★3月末までの事業実施報告

被災した子ども・家庭・コミュニティを長期的に応援する

助成：連合 愛のキャンパ 1,350,000円（ホッとアートとママパパラインに使用）



日時：2016年2月27日（土）16:00～17:00

場所：山形県川西市玉庭地区 玉庭ふるさと総合センターおもいで館

参加人数：被災した子どもの保養52人（子ども28名 大人22名 スタッフ2人）

内容：やってみよう！挑戦してみよう！ パントマイム&ジャグリング&バルーン

パフォーマー：クラウンヒロ

協力：吉野 裕之（NPO法人シャローム災害支援センター）

雪遊びでめいっぱい外で遊んだ子どもたちは、ヒロさんの舞台に集中し、本当によく笑っていた。ジャグリングやバルーンにも積極的に参加した。放射能の不安は未だ拭えていない中、子どもたちを精一杯遊ばせてあげたいと思う大人たちが、子どもたちに温かく寄り添っていた。



日時：2016年3月29日（火） 10:30～11:30

場所：仙台市榴岡児童館

参加人数：121人（子ども105人 保護者12人 スタッフ4人）

内容：びりとブッチーのクラウニングシアター《青い企画》

協力：（特）せんだい杜の子ども劇場

最初からノリノリで転げまわるように笑い、クラウンのおかしさやまぬけな会話に、「だめー！ そっち！ ちがうこっち！ ……。うえうえ！ したした！ あ～あ」と指をさしたり声を出して子どもたちは最初から最後まではまっていた。



日時：2016年3月29日（火） 15:00～16:00

場所：宮城県こども病院 愛子ホール

参加人数：47人（子ども22人 保護者12人 病院関係者7人 スタッフ6人）

内容：びりとブッチーのクラウニングシアター《青い企画》

協力：（特）せんだい杜の子ども劇場

最初は静かにみていたが、ある瞬間「笑いのツボ」に入り込んだように、笑い声が止まらなくなり、イスから転がり落ちてしまったほどだ。あちこちで満面の笑顔で付き添いの保護者と笑い合う姿があった。

ママパパラインの全国交流とネットワーク強化（ドコモ市民活動助成 500,000 円）

①ママパパライン全国研修交流会

日時：2016 年 3 月 7 日（月） 10:30～16:30

場所：オリンピック青少年センター405 号

参加者：52 人（ボランティア 49 人 お客様 2 人 講師 1 人）

●講演会テーマ「どうする！？ スマホ問題 ～これまで、今、これから～」

講師：阿部 学氏【敬愛大学国際学部こども学科講師】

●9 か所のママパパライン実践報告会

全国 9 か所のママパパラインから、現状 声の特色と傾向 社会からの評価 運営上のこと等、各団体の成果や課題について、具体的な話題を提供。

●スキルアップ研修交流会

ワールドカフェ方式で、1 ラウンド：具体的な悩みや問題、課題を 出し合う 2 ラウンド：それらに対しての経験や知恵を出し合う 3 ラウンド：団体や自分でできること 発表



<講演・交流会 参加者の感想>

- ・まず、自分自身がスマホを知らなければ、子どもたちと話せないことを感じた。
- ・スマホ問題、ドラマ仕立てで問題を提起され考えさせられる良い機会になった。
- ・ママパパラインにかかわる仲間を実感し、集まって交流することで元気が出て励まされた。
- ・お互いを大切にする 温かい気持ちになれた交流会だった。
- ・志が高く誇りを持ってママパパラインにかかわっている姿に感動した。

有効な広報周知、財政基盤づくり、ボランティアの人材確保と定着の 3 点が大きな課題として出されました。グループ交流で経験や知恵を出し合うことで、具体的なヒントや気づきがあり、ボランティアとしてのモチベーションが高まりました。また、9 か所のママパパラインの現状を共有することで、解決すべき課題や、継続し積み重ねる大切さが見えました。9 か所のネットワークを生かしたラインの強化も全員で確認できました。エンドレスで奥深い「傾聴」を身につけること、ボランティアの資質向上のためには、全国的な研修・交流・共有が欠かせず、参加者からも継続を強く望まれています。



●ママパパライン全国キャンペーンの実施（ポスター掲示等ご協力ありがとうございました）

実施：2016 年 2 月 15 日（月）～2 月 20 日（土） 全国 9 か所のママパパライン

件数：着信件数 67 件 総通話時間 2,238 分 1 件当たりの平均通話時間 34 分

- ドコモ市民活動助成金により、カード・ポスター等作成でき、広報周知を充実することができました。

乳児・幼児を持つ養育者だけでなく、小学生以上の子どもの親からの電話が増えている状況が続いています。子どものいじめや不登校、進学や受験、思春期など、子どもへの向き合い方や、かかわり方に不安になっている様子も垣間見えます。匿名の電話で話しても、先の見えない解決の困難な状況は変わらないのですが、誰にも話せずにいた不安や悩みを話し、つらい気持ちを吐き出して受け手に温かく受け止めてもらうことで、多くの方が声が明るくなった様子を感じることもできました。指導や助言ではなく共感的に受け止める「傾聴」による支援は、解決の困難な状況でも、受け入れて乗り越えようとする力を呼び起こす効果があると、改めて実感することができました。

2016年4月吉日

正会員各位

特定非営利活動法人 子どもNPO・子ども劇場全国センター

代表理事 稲垣秀一

**特定非営利活動法人 子どもNPO・子ども劇場全国センター
2016年度通常総会のお知らせ**

新緑が美しい季節となりました。お元気でご活躍のことと存じます。
さて、下記のような日時と内容で2016年度通常総会を開催いたします。万障繰り合わせてご出席いただきますよう、ご案内いたします。

記

日時 2016年5月28日（土） 13：30～

場所 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 403号室

議事

- 第1号議案 2015年度事業報告の件
- 第2号議案 2015年度活動計算の件
- 第3号議案 2016年度年度事業計画の件
- 第4号議案 2016年度活動予算の件
- 第5号議案 2016・2017年度役員の件



会 場 の ご 案 内

国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 403 号室

交通案内(交通アクセス)

所在地: 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1

■ 東京駅から

JR中央線 約 14 分 新宿駅乗り換え

小田急線 各駅停車 約 3 分

参宮橋駅 下車 徒歩約 7 分

